

2017年11月15日

出張報告

日本共産党下関市議団 近藤栄次郎
楢垣徳雄

日時・11月9～10日

場所・沖縄県那覇市

目的・全国市長会主催第79回全国都市問題会議

1日目は、基調講演や報告が行われた。2日目は、前日の報告に基づくパネルディスカッションが行われた。参加者は計2,200名とのこと。

基調講演

「多様性のある江戸時代の都市」 東京大学史料編纂所教授 山本 博文氏

主報告

「ひと つなぐ まち ー新しい風をつかむまちづくりー」 沖縄県那覇市長 城間 幹子氏

一般報告

・「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」 准教授 山下 祐介氏

・「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」北海道釧路市長 蝦名 大也氏

・「新たなステージに入った沖縄観光」 琉球大学教授 下地 芳郎氏

感想

基調講演では、江戸時代の町の特徴について報告があった。街道や宿場町の発展に参勤交代が大きく寄与したことを具体的な事例で話され興味を引いた。

そして、お伊勢参りや北前船が各地の文化発展にも貢献したことも話された。人が行きかうことによって町がつくられ文化が発展する。

下関という町がどのようにしてつくられていったか。朝鮮通信使なども含めて、歴史をしっかりと学びたいと思った。

主報告では、那覇市の概要と魅力について話され、亜熱帯の気候と風土に育まれた沖縄独自の歴史や文化を学んだ。同時に、一般報告にも関連するが、経済は、決して米軍基地に依存はしていないこと。観光客も公称では下関と同程度になっているが、実感は、下関市の観光客よりはるかに多いと思った。沖縄への観光は主には飛行機であり、出入りが正確にカウントできる。下関市の場合、正確にはカウントできないと思うが、観光客数については、再計算することが必要と思う。

一般報告で、特に参考になったのは、「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」。

東京一極集中と人口減少社会の問題が話されたが、ある意味では、東京一極集中こそが少子化社会を形成しているといつて過言ではない。下関でも特殊出生率が 1.4 まで手インしているが、東京では 1.1 になっている。中国の「一人っ子」政策が東京だと思う。

の人口ビジョンの考え方と総合戦略のあり方についての解説がありました。そして結びに、

この人口問題を解決していくのに必要なきめ細やかな住民の参加との促進、協働を前提とした政策形成の場づくりこそが求められているものであると結びに話されたが実感。

以上



会場内



宿舍近くの国際通り…賑わっている。